

拠点に配置された職員の役割や拠点の活動の有用性、課題等

	志村大宮病院	社会福祉法人天 竜厚生会 天竜厚 生会診療所	あおぞら診療所	社団法人 鶴岡地 区医師会	社会医療法人恵 和会 西岡病院	(株)ケアーズ 白十 字訪問看護ステー ション	社会医療法人 長 崎記念病院	別府市医師会訪 問看護ステーショ ン	大野市地域医療 支援センター	医療法人葵会 も りおか往診クリニッ ク
介護支援専門員の資格を持つ看護師及び医療ソーシャルワーカーの役割	【介護支援専門員の資格を持つ看護師】 医療に加えてケアマネジメントの知識・視点をもとに療養上の世話と看護に関する助言【医療ソーシャルワーカー】 保健医療・福祉の知識を持ち、多職種の調整役を担う これら専門職が拠点に配置されることで、病院・在宅・福祉との連携が取りやすくなると考えられ、今後は拠点の資格者が地域医療コーディネーターとしての役割を担うことが重要。	・相談窓口 ・各種会合、講演会の企画・運営 ・多職種連携のための調整 ・医療連携支援	【介護支援専門員の資格を持つ看護師】 介護支援専門員を対象とした相談業務、両例検討会の模擬症例の開発 介護職向け講習会の資料作成 【医療ソーシャルワーカー】 医療機関への情報提供、地域の社会資源の把握、各種カンファレンス等の企画等 看護師については、拠点地域での在宅経験があれば、より地域の実情を踏まえた対応が可能であると考えられた。	相談窓口業務として、医療・介護のつなぎ役、地域包括センターとのつなぎ等の役割 退院時カンファレンスや地域ケアネットワークに参加し、医療的な助言	①相談、連携のための書式の作成 ②地域住民への普及啓発活動の実施 ③新設医療機関等への医療ソーシャルワーカーによる支援 ④圏域内の各機関のコーディネート(今後)	急性期からの退院調整を行いながら、地域における医療と介護の橋渡しをする。在宅の医療者、特に看護師が急性期病院の中の医療を知らなければ円滑に連携できない。	多職種・他施設などのあらゆるステークホルダーの接点として活動。他の専門職種と比較して専門業務に偏らない活動が可能。事業組織が大きくなるほど調整が複雑になると考えられる。	・包括支援センターへの助言 ・有床診療所の退院調整、医療機関への介護保険に関する助言、支援 ・サービス事業所職員に対する研修会の企画開催 ・アンケート調査等の実施 ・情報連携ツールの作成 ・事業の広報 ・連携の推進、主治医とコメディカルとの連携調整支援・相談窓口 ・地域住民への啓発、ワンストップサービスの推進	・在宅医療に関する個別相談 ・多職種連携会議の開催 ・医療機関、福祉施設等への訪問相談、情報収集 ・関係機関の調整 ・住民への普及・啓発	【介護支援専門員の資格を持つ看護師】 福祉系の基礎資格を持つケアマネジャーの支援、在宅移行への退院調整になれていない医療機関への支援、地域包括支援センターへの医療的な助言、介護職の教育に係る講師【医療ソーシャルワーカー】 相談窓口業務、多職種合同研修会の企画運営、IT管理等
拠点が行う在宅医療の連携等の有用性	切れ目のないサービスの調整が必要で、地域の特性を生かしたネットワークを拠点がコーディネートすることで、ネットワークが発展する	・山間部に点在する医療・保健・福祉・介護事業を結びつけていく必要があるため、機関を調整する事務局の必要性・有用性がある。 ・様々な企画を行うことで、多職種連携促進・顔の見える関係の構築につながった	・拠点の呼びかけによる、各職種ごとの在宅関係者の組織化は、在宅医療への意識向上や問題解決に有用であったと考えられた。 ・連携拠点到ケアマネジャーへの相談窓口を設置することにより、ケアマネジャーが個々の症例の医療に関して困難を感じている点について相談することができた。	実際の医療・介護提供者では行えない業務、施設間における調整業務等の地域全体を俯瞰して支援する業務を担うことができる(医師会として)。 学習会等への全方位的な参加や支援体制の構築、組織横断的な情報共有体制の構築、行政・歯科医師会といった他の組織との協働などが円滑に実施できる。	在宅療養支援病院の特性を生かし、訪問診療に加えて後方ベッドの確保を実施。 拠点の活動を通じて、地区の在宅医療に携わる多職種に、在宅医療担う一員としての意識付けがなされた。 課題は地域により様々であり、拠点がそれぞれの地域の特性に応じた役割を明確にとらえ、求められる役割を担うことが、在宅医療の推進、連携において有用。	訪問看護ステーションが事業を実施することにより、これまでの訪問看護・連携の経験を生かすことができる。訪問看護師は地域を熟知し、医療と介護の両分野に精通し、患者の生活感覚を知っている。地域連携による相談支援を行うことで、地域包括支援センターを中心とする地域のケアマネジメント体制のバックアップという形で成果が現れている。	24時間365日の複数診療科による救急体制を敷いているため、在宅医療の後方支援としての体制が構築されていた。 病院であるため、自院から多職種を参画させられるとともに、専門的な研修会を自院スタッフで行うことができた。	・多職種が一堂に会する場の設定等により、共通理解や顔の見える関係が構築され、在宅医療連携の構築に有用 ・二職種間の顔の見える関係は連携を容易にする ・同職種の会議やグループワークは、共通の課題について相互にコンサルテーションを行うことができ、マンパワー不足の補完につながることもある。 ・拠点によるヒューマンネットワーク作りにより、主治医の負担軽減につながる。	・市内全域を対象として、多職種協働による在宅医療の支援体制を構築するためには、医師会や地域包括支援センター等と連動しながらの活動が重要であり、そのためにも、連携拠点を行政が担う意義は大きい ・市が拠点を担うことで、住民に対し、かかりつけ医の推進や在宅医療に対する意識を高めるための健康教育を継続することが可能	・ワーキング委員会を在宅医療・介護に関わるほぼ全ての職種の職能団体等及び行政からの委員構成としたことで、多職種に対して広い視野を持って関わる事ができるとともに、内容を各団体等にフィードバックできた。 ・行政との意見交換会につながり、地域として在宅医療推進に取り組むことが重要であると認識された。 ・医療介護従事者の相談窓口として機能することにより、従事者の悩みの解決等につながっていると考えられた。
拠点が行う在宅医療の連携等の課題や改善点	地域の医療従事者が情報を共有できるシステムの導入が必要 ボランティア・民生委員との関わりを持つ必要がある	・山間部で人材確保が困難であり、24時間365日体制の構築は困難。職種や地区を越えた地域全体で補完する仕組み作りが重要	顔の見える関係構築を基盤とした情報技術に基づく患者情報システムを導入することにより、情報を正確かつ遅延なく多職種間で共有できると考えられた。 連携拠点にかかる実務負担は相当大きく、人員が必要。 最終的には、地域の専門領域については専門職からなる職能団体が課題解決を図り、拠点はサポート役を担う形を志向する。	医療機関を母体とはしていないため、臨床に関わるアウトリーチ等については実績の面で弱い部分が確認できた。 コーディネート機能の更なる充実、24時間対応体制の構築(看護、薬剤等含め)の構築に今後つとめる。	合同会議において、「在宅看取りが目的ではないか」「患者の困り込みになるのではないか」との指摘があった。患者の尊厳や死生観への配慮は重要。 地域内の医療・介護・福祉のサービス提供体制にはばらつきがあり、均てん化をはかる必要がある。 拠点としての機能を果たすためには、人的・物的資源が必要	歯科、薬剤師、リハスタッフ等、医師以外の職種との連携を深める必要がある。急性期病院の看護師や地域包括支援センター職員の訪問看護ステーション実習を今後深めることが有用。 病院との連携も推進。	地域の中核病院であるため、他施設からは、対応してほしいことの要望が大きかった。協議会の開催は回数が増加するものには対応する工夫が必要。研修会を自院で開催することは、従業員には負担増になる。	市は、通常は市民の検診や健康相談に関わるが、医療や介護の現場はほとんど見えない。今回の事業を通して、医師会、地域包括支援センター、保健所等に相談する機会が増え、事業を共催することで連携が深まり、地域の課題について共通認識を持てるようになった。	人口30万人の盛岡市全域を対象としているため、現在の拠点の人員配置ではマンパワー不足かつ、拠点1カ所ですべてのカバーすることは困難。在宅医療を熟知した医療ソーシャルワーカーの雇用が困難であり、地域特性を考慮した人員配置をとる必要がある。 見いだされた課題については、それぞれの職種ごとの部門別の取り組みを推進し、拠点が支援しあう関係を構築する必要がある。	

拠点に配置された職員の役割や拠点の活動の有用性、課題等

	志村大宮病院	社会福祉法人天 竜厚生会 天竜厚 生会診療所	あおぞら診療所	社団法人 鶴岡地 区医師会	社会医療法人恵 和会 西岡病院	(株)ケアーズ 白十 字訪問看護ステー ション	社会医療法人 長 崎記念病院	別府市医師会訪 問看護ステーショ ン	大野市地域医療 支援センター	医療法人葵会 も りおか往診クリニッ ク
独自の活動	①地域活性化と医商連 携 ②えきまえ保健室 ③地域活性化プロジェ クト④介護用品宅配 サービス ⑤配食サービス ⑥介護タクシー送迎 サービス	・地域住民への啓発の ための講演会実施 ・医療・介護・行政関係 者等へのインフォーマ ル・サービスをまとめた 冊子の配布		①活動報告やショートス テイの空き情報等を掲 載したホームページ作 成、更新 ②パンフレット作成、周 知 ③メディアへの掲載 ④市民のつどいへの参 加 ⑤鶴岡地区医療福祉連 携活動・庄内プロジェ クト活動合同報告会	①災害マニュアルの検 討 ②メディア対応 ③講演 ④学会発表 ⑤他市区町村等の在宅 医療推進への取り組み に関する相談への対応	暮らしの保健室を実施	①在宅Dr. ネットとの連 携 ②行政との連携 ③自院スタッフによる専 門的な研修会 ④病院としての救急医 療体制、入院施設の活 用 ⑤長崎市南西部地域医 療協議会との連携	・緊急一時ベッドの確保 ・訪問看護のコールセン ター機能 ・医療介護のワンストッ プサービスの実施	①決められた様式を保 健センターにFAXするこ とにより、訪問歯科診療 を実施するサービス	①在宅医療機器の無償 貸し出し ②他医療機関・訪問看 護ステーションとの昼食 会開催
その他									保健センターや福祉事 務所等行政機能に加え て、社会福祉協議会や 医師会などの集約を進 めている	